

直方ミニバスケットボールクラブだより

2024年度のスタートにあたり

ミニバス
共育コラム

ある卒部生のメッセージを胸に

～2023年度 クラブお別れ会より～

ぼくは、4年の2月に、前から興味があったバスケット部に入部しました。初心者だったけど、少しずつできることが増えてきて、試合にも出してもらえて楽しくバスケットをしていました。

5年の夏に病気があることが発覚して治すため、長い入院をすることになりました。病気が原因で、左手・左足にマヒが残り、前のようにバスケットができなくて、とても悔しい思いをしました。でも病院の先生から、「たくさん遊んだり、運動することが一番のリハビリだよ」と言われ、クラブに復活しました。新しく入部した人が増えていて驚きましたが、監督やコーチやみんながあたたかく迎えてくれてうれしかったです。体調がいいときは、自分ができる範囲でがんばろうと、クラブに参加してシュートの練習などをしました。お母さんに、シュートが入るようになったことを伝えると、とても喜んでいました。

ぼくは、クラブに入部して、学年に関係なく友だちがたくさんできたことがうれしかったです。みなさん本当にありがとうございました。

これは、2023年度のクラブお別れ会でのある卒部生のメッセージです。親御さんは、病気が判明して以来、毎日祈るような思いで今日まで過ごされてきています。幸い順調に回復に向かい、少しずつ登校もできるようになり、3月13日、小学校を卒業することができました。卒業の姿を特別な思いで見られていたことと思います。現在は中学校にも通常通り、登校することができています。

クラブでの活動は思うようにはできませんでしたが、退部という形をとることなく、体調のいいときを見計らっては、体育館に来て、みんなが活動する姿を見ていました。たまにシュートなどをうって、ボールを扱うこと、体を動かすことを楽しんでいました。

私は、「生きる」ということの意味や、そのすばらしさを感じさせてもらっていました。すべての子どもたち(小学生)が、クラブ、チーム、スポーツと出会い、ふれあうことの意義を私たちにしっかり教えてくれていました。

多くの卒業生が、卒部後も断続的に活動に参加してくれて、後輩たちと一緒に練習してくれています。OBたちには、参加した時は、小学生と同じメニューをしながらプレーを見せてほしいことやアドバイスをお願いしています。そのことも、OBからOBに継承され、参加してくれたときには、普段よりもさらに質の高い練習になっています。クラブを通じて、子どもたちどうしが、よい関係でつながり続けてくれる姿を見るととてもうれしい気持ちになります。

(監督／藤田勝博)

生きる

谷川俊太郎

生きているということ
いま生きているということ
それはのどがかわくということ
木もれ陽がまぶしいということ
ふっと或るメロディを思い出すということ
くしゃみすること
あなたと手をつなぐこと

生きているということ
いま生きているということ
それはミニスカート
それはプラネタリウム
それはヨハン・シュトラウス
それはピカソ
それはアルプス
すべての美しいものに出会うということ
そして
かくされた悪を注意深くこぼむこと

生きているということ
いま生きているということ
泣けるということ
笑えるということ
怒れるということ
自由ということ

生きているということ
いま生きているということ
いま遠くて犬が吠えるということ
いま地球が廻っているということ
いまどこかで産声があがるということ
いまどこかで兵士が傷つくということ
いまぶんこがゆれているということ
いまいまが過ぎてゆくこと

生きているということ
いま生きているということ
鳥ははばたくということ
海はとどろくということ
かたつむりははうということ
人は愛するということ
あなたの手のぬくみ
いのちということ

6年生の国語の教科書の最後に古くから掲載されている教材で、今なお色あせることのない谷川俊太郎の有名な詩です。

